2026年11月15日号（通巻143号）

NITTOSEIKO 日東精工 ニュースレター

京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20番地／日東精工株式会社経営企画室発行

新型電流制御ナットランナ「KX-R1 シリーズ」誕生
世界に向けてその素晴らしさ発信

当社ではファスナー事業本部で工業用ねじ、産機事業本部でねじ締め機・ねじ締めロボット、そして制御システム事業本部で計測・検査機器を製造・販売しています。ねじをつくっているメーカ、ねじ締め機をつくっているメーカはそれぞれ世界にたくさんありますが、ねじもねじ締め機も、そして検査機器まですべてを網羅している企業は世界でも例がなく、〈締結分野のトータルソリューション〉を提供できるのが、日東精工の強みの一つになっています。ねじが素材や用途別に合わせてさまざまな多品種を用意しているように、ねじ締め機・ねじ締めロボットに関しても、当社ではお客さまニーズに合わせてバリエーションを用意しており、この11月10日から、新たに新型電流制御ナットランナ「KX-R1 シリーズ」の受注を開始しています。

ねじ締めといえば一般にはホームセンターなどでも購入できる手動のドライバや電動ドライバがありますが、高度な工業製品ではACサーボモーターのついたドライバのことを「ナットランナ」といい、そのなかには、たとえば自動車の組立工場などの安心安全に直結する高度な要求に応えるハイエンドなもの（当社でいえばNXシリーズ）もあれば、経済性や利便性を考慮したセカンドクラスのもの（当社でいえばKXシリーズ）などもあります。

今般、このKXシリーズの基本性能を大幅にバージョンアップさせ、またこれまで搭載していなかった有機ELモニターやブロックプログラミングを採用したことで、より使いやすいものとさせました。**1. 高速締結で生産性向上　サイクルタイムを大幅短縮、2. 高精度な締結制御で品質を安定化 不良発生リスクを低減、3. 見える化で保守性を向上 ダウンタイムを低減、4. ドラッグ＆ドロップで簡単プログラミング 現場主導の工程改善を実現**の4つが大きな特長です（詳しい内容はQRコードからプレスリリースをご参照いただけます）。





右から、取締役兼執行役員産機事業本部本部長 小雲康弘、産機事業本部技術部開発課課長塩田耕一郎、産機事業本部技術部部長中村博之

大雑把にいうならば、従来品と比べサイクルタイムを45%も削減し生産効率を向上。またそのことは省力・省エネにもつながり、結果として環境負荷の低減にも貢献しています。一般にスペックが上がるほどに使いこなすのが大変というイメージを抱きがちですが、ドラッグ＆ドロップのプログラミングを使用し、使いやすい・わかりやすい仕様になっていることで、既存のお客様の従来製品との置き換え（更新）需要だけでなく、ねじ締め機の導入を検討されている新規のお客様の開拓にもつなげていけるものです。

「これまでにない高速回転を目指したのですが、技術的に困難なところをレジェンドと呼ばれたOBの方の知見も活用しました）」と産機事業本部技術部開発課課長の塩田耕一郎。当社の88年の技術の積み重ねの賜物ともいえる製品でもあるわけです。「国内だけでなく販路を世界に広げていくためにCEマーキング（EU加盟国の基準を満たしたことを示す適合表示）に対応しています」（小雲康弘 産機事業本部本部長）、この次世代型電流制御ナットランナ「KX-R1 シリーズ」が世界に広がっていくことへの期待は高まります！

▲より詳しい
リリースはこちら

「International Suppliers Fair (IZB) 2026」に出展し 日東精工グループの「トータルソリューション」を ヨーロッパ市場に大きくアピールしました！

当社では中期経営計画の事業拡大戦略に基づき、2023年にはドイツに新しい拠点を設け、また2025年にはM&Aでインドに子会社を設けるなど、海外事業展開を拡大させています。

今般、ドイツ ヴォルフスブルクで「International Suppliers Fair（IZB）2026」（10月27日～29日）が開催され、当社も出展いたしました。「IZB」は、世界中から36ヶ国850社が出展する自動車サプライヤー業界向けのヨーロッパ最大規模の展示会。当社では防水ねじ「アスファ®WP」、コンタミ対策ねじ「CPグリップ®」、樹脂用セルフタッピンねじ「ギザタイト®」などの工業用ファスナーに加え、異種金属接合技術「AKROSE®」、超低推力型単軸ねじ締め機「FM513VZR」や精密プレス部品（㈱伸和精工製）などを展示。さらには、11月の販売開始に先駆け新製品の噛み込み防止ねじ「AGpoint™」も特別出展をいたしました。個々の技術や製品力の高さはもちろんですが、当社ならではの締結分野におけるトータルソリューションを提案し多くの来場者から高い評価をいただきました。



AIサーバー向け機器や電子機器などの組立工程では、おねじとめねじの噛み込みによる締結不良が一度発生すると製品の手直しができず廃棄につながるケースも多く、ライン停止による生産性の悪化も問題となっている。噛み込み現象を包括的に抑制できるねじは、かねてより組立現場から要望されており、こうした現場の声に応えるべく、新しい噛み込み防止ねじ「AGpoint」を開発。11月1日に販売を開始

Uターン者やIターン者が活躍できる場を提供 日東精工は創業の地、あやべを大切にしています

「東京一極集中から分散へ」「地方の時代へ」などといわれるようになっても、現実にはそれがなかなか進んでいかない原因のひとつに〈雇用〉の問題があります。Uターン、Iターンを希望し住む家は見つかっても、地方には働き口がなかなか見つからないということなのですが、日東精工はこういった地域雇用の受け皿にもなっています。実際、当社では多くのUターン者、Iターン者が活躍しており、たとえば研究開発部に所属する近藤健太郎もその一人です。

もともと東海地方で別の職種に就いていたのですが、モノづくり、とくに設計業務への挑戦を志し、2015年に経験者採用で入社。現在は係長として新技術、新製品の開発に従事しています。そして会社だけでなく地域の自治会では副会長を務め、人権セミナーなどのイベントにも携わっています。

近藤が暮らす吉美地区には平安時代に由緒をもつ高倉神社があり「ヒヤソ踊り」（指定無形文化財）など守るべき伝承があるのですが、こういった祭事にも積極的に参加。少子高齢化で長く続いた伝統行事を維持できなくなるところが増えているなかで、近藤は結婚し、当地で3人の子宝（7歳、5歳、0歳）にも恵まれ、子どもたちは地域の未来を担う大切な存在として期待されています。当社の社是「我らの信条」では〈よい自己をつくる〉〈よい仕事をする〉〈よい貢献をする〉と謳っていますが、UターンやIターンしてきた従業員が自己研鑽に努め会社で活躍するだけではなく、地域社会にも溶け込んでさまざまな形で貢献していくという〈よい循環〉が生まれているのです。東証プライム上場企業のほとんどが東京や大阪に本社をおく（移転させる）なかで、当社では幅広く事業のグローバル展開をしつつも、今後もあやべに本社をおき続け、地域とともに歩んでまいります。





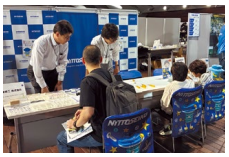
地域の祭りに家族で参加。祭りの運営にも自治会役員として携わり今年は写真のように太鼓を担当。しっかり地域を盛り上げている

中・高校生の分析機器体験学習に日東精工アナリテックが協力



（一社）日本分析機器工業会では2012年から毎年、中・高校生を対象に「分析機器体験実習JAIMAサマーサイエンススクール」を開催しています。さまざまな産業を支える基盤となっている分析機器・技術への理解を深め、科学技術への関心を高めてもらうことを目的としたものですが、当社の連結子会社である日東精工アナリテック㈱もその趣旨に賛同し企画協力を行っており、今年度は自動滴定装置による入浴剤中の成分分析（炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウムの二段滴定）のプログラムを用意しました。授業や部活動などで手作業による滴定操作を経験している学生も多く、滴定作業を自動化した同装置に高い関心を示し、より技術的な質問が投げかけられました。日東精工グループでは今後もこういった様々なプログラムを用意し、若い世代を応援してまいります。

個人投資家の方を対象にさまざまな形で発信しています



当社では証券会社や機関投資家、メディアの方々だけでなく、個人の皆さまにも日東精工グループをご理解・ご支援いただけるように、さまざまな機会を設けています。

9月14日は野村インベスター・リレーションズ㈱の投資家向け情報サービス「MIR@I」で、個人投資家さま向けの「IR企業説明会」をWEBで開催。また、10月4日は鎌倉投信㈱主催のイベント「結い2101『受益者総会®』」にも出展。0.6ミリ極小ねじのねじ締め体験プログラムなどを用意しつつ、会社や事業説明の動画を流し、製品展示を行い、日東精工グループの潜在力をアピールしました。そのほかにも当社株主の方を対象にした工場見学会＆スモールミーティングなども実施し、理解と共感の輪が広がるよう努めています。



▲9月4日のIR企業説明会の動画はこちら

サント機工の山下会長が防犯功労者（防犯栄誉金章）受章



写真中央が山下会長、向かって右が京都府綾部警察署所長の村上道信警視、そして左が当社代表取締役社長荒賀誠（綾部防犯協会の会長も兼務）

当社「日東協力会」の会員企業であるサント機工㈱の山下信幸取締役会長が、今般、防犯功労者（防犯栄誉金章）を受章されました。

山下会長は平成9年に綾部防犯協会の理事に就任。平成19年からは現在に至るまで同協会の副会長を20年近く務められています。各種防犯活動に献身的に取り組む姿勢が高く評価され、表彰されたものです。当社と関連深い企業の社会貢献を誇りに思い、当社もまた、地域安全活動に積極的に取り組んでまいります。

電通大副学長を招いて「生成AI時代における製造業の経営変革」を学ぶ

9月29日に国立大学法人電気通信大学副学長で人工知能先端研究センター教授の坂本真樹さんを講師に「生成AI時代における製造業の経営変革について」の研修会を、役員を対象に当社本社で実施しました。「AIの進化と課題」「感性AI開発」「感性AIで変わるものづくり」「Physical AIが製造業に及ぼす変化」「AIと共存する未来に向けて」といったまさに時代に即した内容で実りの多いものとなりました。こういった研修会を当社では階層別に開催しており、これからもさまざまな講師をお招きして、視野が狭くならないよう学びを大切にしてまいります。



誠の言霊（ことば）㊸

人は愛するに足り 真心は信ずるに足る

代表取締役社長 荒賀 誠

アフガニスタンなどで長年、人道支援を行い、現地の人から慕われつつも凶弾に倒れた中村哲さん。その中村さんを現地でサポートしていたのが藤田千代子※さんです。30年以上前、中村さんが一時帰国し資金援助のための講演を行い「現地の女性はブルカをまとい、男性医師には手や足の一部しか見せない。背中に聴診器を当てることもできない。手伝える人はいませんか」と呼びかけられたとき即座に名乗りを上げた唯一の女性で、以来、中村さんが取り組む活動をずっと支え、彼亡きあとも、その遺志を継いでおられます。

藤田さんが手伝いをはじめたとき、まだ段取りがよくわからないまま、現地の人の対応が遅いので自分でさっさと解決した。それを褒められるかと思ったら、「主役は自分たちではない。懸命に働くのはいいが、そこに現地の人を巻き込んでいかないといけない」と叱られたそう。また、有力者からいろいろな思惑で冷遇されることもあり、憤りを抑えきれないスタッフも多いなかで、中村さんはいつも変わらず「それでも、人は愛するに足り、真心は信ずるに足る」と信念を貫いたそう。ほんとうにいい言葉で、大切にしたい言葉ですね。

同時に、この藤田さんもですし、今、話題のＩＣＣ所長の赤根智子さん、国連の軍縮担当のトップ中満泉さん、世界で活躍される女性を応援し、彼女たちに続く人がどんどん生まれていくことを願っています。

※藤田千代子さんは「ペシャワール会PMS支援室室長／中村哲さんは2019年12月4日没

「幸せ」を見つけるヒント ―― 11月

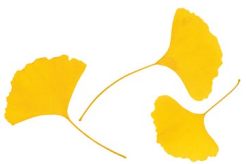
銀杏の葉にロマンを感じる

文豪ゲーテに銀杏を人にたとえた詩があります。

東の国からはるばると／わたしの庭にうつされたこの銀杏の葉には／心あるひとをよろこばす／ひそかな意味がかくれています。／もともとこれは一枚の葉が／二つに分かれたものでしょうか。／それとも二枚がむすばれ合って／ひとつに見えるものなのでしょうか。／この問いに答えようとして／わたしはほんとうの意味がわかりました。／わたしの詩を読むたびにお感じになりませんか／わたしはひとりでもあなたとふたりでいるのだと。（ゲーテ『西東詩集』より）。

日本からドイツに運ばれてきた銀杏の木、その葉っぱは中央の切れ込みから対称形になっていて恋人が結ばれたようだと……、ロマンを感じさせる話です。

銀杏が黄色に、木々が色づく季節が近づいてきました。あやべにも大本、安国寺、君尾山など紅葉スポットがたくさんあります。もみじ狩りを楽しみながら、ゲーテの詩を思い巡らせてみるのも一興ではないでしょうか。



日東精工代表取締役会長　綾部商工会議所会頭　材木正己

発行：日東精工株式会社経営管理本部経営企画室
当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲読いただけます